

# 嶋満神社便り

令和六年 八月号(第四十五号)

発行 嶋満神社奉賛会

## 敦賀市、常宮神社(じょうぐうじんじや)

敦賀の駅前から一日三往復しかないバスで二十二分、敦賀湾を望む景勝の地、日本原電敦賀発電所への道中である半島の中ほどに、その神社は鎮座します。

前号の続きで、こちらも以前より一度は訪れたいと思っていた神社です。

なぜそのような「辺境の地」に……。それは御祭神が神功皇后(じんくうこうごう)、敦賀市中心部に鎮座する気比神宮(けひじんぐう)の御祭神である仲哀天皇(ちゅうあいてんの)の后ですから、そうなれば我が嶋満神社の御祭神、応神天皇(おうじんてんの)のお母上ということ、お参りしないわけにはまいりません。

立派な「拝所」は元は気比神宮の中門であったのを昭和になってから移築されたということらしいです。

「常宮」の社名は神功皇后が「常に宮居し、波風静かなる哉楽しや」と言われた故事によるそうで、明治になるまでは気比神宮の「奥宮」とされていたようです。そう思うと、海沿いの道路に面して建つ拝殿(昔は波打ち際に建っていたのでしょう)は、常宮さん本殿だけではないかと、対岸の気比神宮をも拝する場所なのではないかという気がしてきます。

気比神宮からは毎年七月に御祭神・仲哀天皇を納めた船神輿が船で海を渡り、神功皇后に会いに行かれるというロマンチックな神事が執り行われるそうです。

次の写真上は道路沿いの



常宮神社



常宮神社拝所

拝殿、下は海に目を転じたところ。爽やかな海風に吹かれながら、敦賀湾の眺望にしばし心をリフレッシュするのもいいですよ。



常宮神社拝殿

## 敦賀市、八幡神社

もちろん敦賀市にも「八幡さん」はあります。

旧市街地の中心部にある八幡神社は、神功皇后摂政の時代皇太子であった応神天皇が気比神宮にお参りをされた時の行宮(あんぐう:仮の宮)の跡、と言われています。

常宮さんもそうですが、こちらも戦国時代にこの地を治めた大谷吉継によつて厚く保護され、寄進されたものも多くなっています。

大谷吉継と言えは関ヶ原の戦いで敗れた西軍方であったため、敦賀城は完全に破却され、彼のゆかりの神社やお寺に残されたこれらの寄進物や、城内から移築された門などで、しのぶ他はありません。

彼の生きざまの潔さや悲劇性から、特に女性を中心にファンも多く、「よっしーくん」という公認キャラクターも生まれています。

また敦賀市内の各観光施設には彼に関する様々な展示もあり、一見の価値があります。

尚、敦賀市の神社としては本誌第一一六号(平成三十一年一月)で気比神宮、第二十七号(平成三十一年十月)で金ヶ崎宮をご紹介しています。併せてご覧ください。

資料出典 敦賀観光協会公式サイト、福井県神社庁サイト

※本年度例祭には会員の皆様のご協力、またお供えを賜り、ありがとうございました。簡単ですがお礼申し上げます。



大谷吉継肖像画